

「最適投資戦略：ポートフォリオ・テクノロジーの理論と実践」  
(初版 誤植正誤表) 2020/6/13

項	行・式・図表	誤	正
まえがき	17行	過程で貴重な情報の損失	過程における貴重な情報の損失
vi	4行	複数の白鳥が急激に入れ替わる際の残像	白鳥が湖面にて時折羽ばたく姿の残像
p.5	図 1.4	$-1 < \rho < \pm 1$	$-1 < \rho < +1$
p.5	式 (1.5)	$\begin{pmatrix} E(R_1) \\ E(R_1) \end{pmatrix}$	$\begin{pmatrix} E(R_1) \\ E(R_2) \end{pmatrix}$
p.6	式 (1.6)	$= w_1^2 \sigma_{11}^2 + 2w_1 w_2 \sigma_{12} + w_2^2 \sigma_{22}^2$	$= w_1^2 \sigma_{11} + 2w_1 w_2 \sigma_{12} + w_2^2 \sigma_{22}$
p.6	式 (1.6)	$= w_1^2 \sigma_{11}^2 + 2w_1 w_2 \sqrt{\sigma_{11}} \sqrt{\sigma_{22}} \rho_{12} + w_2^2 \sigma_{22}^2$	$= w_1^2 \sigma_{11} + 2w_1 w_2 \sqrt{\sigma_{11}} \sqrt{\sigma_{22}} \rho_{12} + w_2^2 \sigma_{22}$
p.9	式 (1.18)	$E(X, Y)$	$E(XY)$
p.9	式 (1.20)	$= \mathbf{w}_{p1}^\top \{E(\mathbf{R}\mathbf{R}^\top) \mathbf{w}_{p2} - E(\mathbf{R})E(\mathbf{R}^\top)\} \mathbf{w}_{p2}$	$= \mathbf{w}_{p1}^\top \{E(\mathbf{R}\mathbf{R}^\top) - E(\mathbf{R})E(\mathbf{R}^\top)\} \mathbf{w}_{p2}$
p.11	10行	投資することがはできない	投資することができない
p.12	3行	とかける.	と書ける.
p.13	6行	ポートフォリオを考えよう.	ポートフォリオを考える.
p.13	20行	ある場合に限られる.	ある場合に限られることを示す.
p.17	15行	期待リターン $E(R)$	期待リターン $E(r)$
p.18	19行	$E(R)$ の放物線	$E(r)$ の放物線
p.22	16行	(ただし限定区間のみ)	(ただし限定区間内)
p.23	16行	いての議論があり	いては議論があり
p.28	24行	時価増額	時価総額
p.29	1行	$v_i = \sum y_i^k$	$v_i = \sum_k w^k y_i^k$
p.30	式 (1.81)	$\sigma_p = \alpha^2 \sigma_m^2 + 2\alpha(1-\alpha)cov(r_m, r_i) + (1-\alpha)^2 \sigma_j^2$	$\sigma_p^2 = \alpha^2 \sigma_m^2 + 2\alpha(1-\alpha)cov(r_m, r_i) + (1-\alpha)^2 \sigma_i^2$
p.31	式 (1.92)	$\mathbf{x} = \Sigma^{-1} (\mathbf{r} - r_f \mathbf{1})$	$\mathbf{x} = \lambda \Sigma^{-1} (\mathbf{r} - r_f \mathbf{1})$
p.32	式 (1.97)	$V(r_2) = cov(r_2, r_1) = (E(r_2) - r_f)^2 G$	$V(r_2) = cov(r_2, r_2) = (E(r_2) - r_f)^2 G$
p.32	14行	式 (1.97) より	式 (1.95) より, 式 (1.97) 同様
p.32	14行	$G = \frac{V(r_2)}{(E(r_2) - r_f)^2}$	$G = \frac{V(r_1)}{(E(r_1) - r_f)^2}$

項	行・式・図表	誤	正
p.32	式 (1.98)	$= \frac{\text{cov}(r_2, r_1)}{V(r_2)} E(r_1) - r_f$	$= \frac{\text{cov}(r_2, r_1)}{V(r_1)} E(r_1) - r_f$
p.37	21 行	$E_Z = \frac{A}{C} - \frac{D/C^2}{E(R_P) - A/C}$	$E(r_Z) = \frac{A}{C} - \frac{D/C^2}{E(R_P) - A/C}$
p.40	式 (2.27)	$x_{ki} = S_k \sum_j^N D_{ij} E(R_j) - T_k \sum_j^N D_{ij}$	$x_{ki} = S_k \sum_j^N D_{ij} E(R_j) + T_k \sum_j^N D_{ij}$
p.43	27 行	ゼロとなるため	ゼロとなることから
p.49	21 行	背景と指摘	背景であると指摘
p.52	12 行	$k$ は $l$ よりも	$l$ は $k$ よりも
p.53	9 行	要素	各要素
p.54	式 (3.4)	$\epsilon_i(t) \sim \mathcal{N}(0, \sigma_{\epsilon_i})$	$\epsilon_i(t) \sim \mathcal{N}(0, \sigma_{\epsilon_i}^2)$
p.55	4 行	時価増額	時価総額
p.57	1 行	と表せ,	と表し,
p.60	10 行	のである.	のとなる.
p.73	式 (4.2)	$\alpha(t) \sim \mathcal{N}(\hat{\alpha}(t), \sigma_\mu)$	$\alpha(t) \sim \mathcal{N}(E(\alpha(t)), \sigma_\mu^2)$
p.73	式 (4.3)	$\epsilon(t) \sim \mathcal{N}(0, \sigma_\epsilon)$	$\epsilon(t) \sim \mathcal{N}(0, \sigma_\epsilon^2)$
p.74	式 (4.7)	$\beta_i(t) \sim \mathcal{N}(\hat{\beta}_i(t), \sigma_{\nu_i}^2)$	$\beta_i(t) \sim \mathcal{N}(\hat{\beta}_i(t), \sigma_{\nu_i}^2)$
p.75	3 行	式 (4.5)	式 (4.6)
p.75	4 行	式 (4.6)	式 (4.7)
p.82	7 行	1 期先予測 $B_i(t)$	1 期先予測の分散 $B_i(t)$
p.83	図表 4.5	期待値 $v_i(t) = z_i(t) - b_i(t)y_m(t)$	期待値 $v_i(t) = y_i(t) - b_i(t)y_m(t)$
p.87	5 行	株価変動量	株価変動率
p.91	23 行	ダミー変数扱いであり	ダミー変数扱いとなることから
p.96	式 (4.64)2 行	$P(I(t-1) = j   \mathcal{F}_{1:t-1})$	$P(I(t-1) = i   \mathcal{F}_{1:t-1})$
p.96	式 (4.64)3 行	$P(I(t-1) = j   \mathcal{F}_{1:t-1})$	$P(I(t-1) = i   \mathcal{F}_{1:t-1})$
p.96	式 (4.65)3 行目分子および分母	$P(I(t) = j   \mathcal{F}_{1:t})$	$P(I(t) = j   \mathcal{F}_{1:t-1})$
p.97	23 行	$\mathbf{A}$ は $(J+1) \times J$ であり	$\mathbf{A}$ は $(J+1) \times J$ であるため
p.98	13 行	$\pi(t)$ とする	$\pi(t)$ としよう

項	行・式・図表	誤	正
p.99	式 (4.81)1~ 3 行	$\sum_{i=1}^k$	$\sum_{i=1}^J$
p.100	23 行	式 (4.85) は, 分子第 1 項	式 (4.85) は, 近似的に分子第 1 項
p.100	24 行	=	≈
p.101	式 (4.86)5 行	$\frac{P(I(t+1)=j \mathcal{F}_{1:T}) \times P(I(t)=i \mathcal{F}_{1:t})}{P(I(t+1)=j I(t)=i)}$	$\frac{P(I(t+1)=j \mathcal{F}_{1:T}) \times P(I(t)=i \mathcal{F}_{1:t}) \times P(I(t+1)=j I(t)=i)}{P(I(t+1)=j \mathcal{F}_{1:t})}$
p.101	式 (4.87)	$\sum_{j=1}^k \frac{P(I(t)=i \mathcal{F}_{1:T})p_{ji}}{P(I(t+1)=j \mathcal{F}_{1:t})}$	$\sum_{j=1}^J \frac{P(I(t+1)=j \mathcal{F}_{1:T})p_{ij}}{P(I(t+1)=j \mathcal{F}_{1:t})}$
p.104	式 (4.94)	$\sum_{k=1}^n r^{k-1}$	$\sum_{k=1}^n r^{k-1}$
p.105	式 (4.95)	$\sum_{k=1}^n r^{k-1}$	$\sum_{k=1}^{\infty} r^{k-1}$
p.106	式 (4.99)	$\theta^2$	$\Theta^2$
p.118	1 行	確率 1 で $\theta^{(k)}$ は $\mathcal{L}(\theta^{(k+1)})$ に	確率 1 で $\theta^{(k)}$ は $\theta^{(k+1)}$ に
p.118	式 (4.139)	$P(\theta^{(k+1)}   \mathbf{y}) p(\theta^{(k+1)} \rightarrow \theta^{(k)}) =$	$P(\theta^{(k+1)}   \mathbf{y}) =$
p.120	式 (4.143)	$r_{I(t)} =$	$r(t) =$
p.120	式 (4.143)	$\mathcal{N}(0, \sigma_{I(t)})$	$\mathcal{N}(0, \sigma_{I(t)}^2)$
p.128	式 (5.1)	$r_{i/J}(t) = \mu_i + \epsilon_{i/J}(t)$	$r(t) = \mu_{i/J} + \epsilon_{i/J}(t)$
p.128	式 (5.1)	$\epsilon_{i/J}(t) \sim \mathcal{N}(0, \sigma_i^2)$	$\epsilon_{i/J}(t) \sim \mathcal{N}(0, \sigma_{i/J}^2)$
p.130	5 行	$\beta_{i/J}$ は概ね 1.1	$\beta_{i/J}$ が概ね 1.1
p.132	式 (5.6)	$r_{i/J}(t) = \mu_i + \epsilon_{i/J}(t)$	$r(t) = \mu_{i/J} + \epsilon_{i/J}(t)$
p.132	式 (5.6)	$\epsilon_{i/J}(t) \sim \mathcal{N}(0, \sigma_i^2)$	$\epsilon_{i/J}(t) \sim \mathcal{N}(0, \sigma_{i/J}^2)$
p.137	17 行	誤差がある $e$	誤差である $e$
p.140	12 行	注意しつつ式 (5.20)	注意しつつ, 式 (5.20)
p.141	2 行	とかける.	と書ける.
p.146	11 行	引き締まっており, 一方が	引き締まっており, これは一方が
p.148	5 行	解析的な手法値は	解析的な手法とは
p.190	索引	時価増額加重	時価総額加重